



「もったいない」を「ありがとう」に！未利用食品の寄付を募集中です

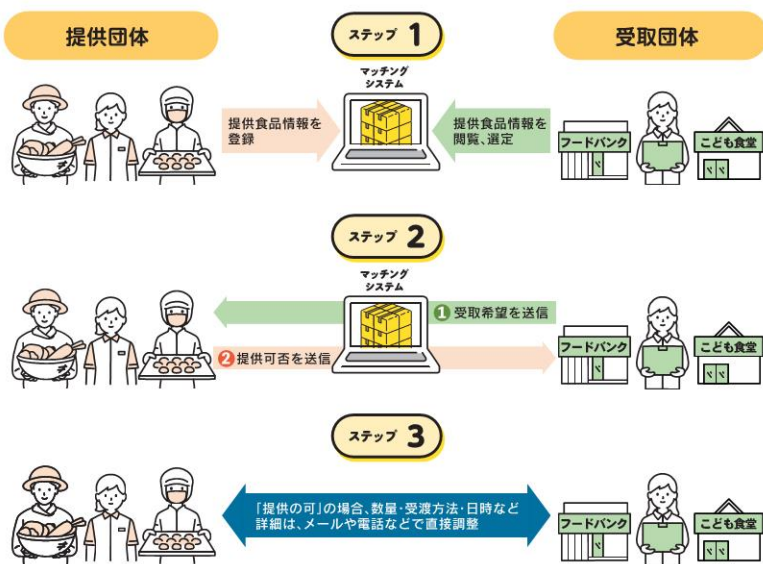
食品の寄付には群馬県未利用食品マッチングシステムをご利用ください

群馬県未利用食品マッチングシステムとは、食品ロス削減を図るため、食品関連事業者などの食品提供者とフードバンクなどの食品受取者を橋渡しするWebサービスです。

群馬県未利用食品マッチングシステムを利用するメリット

- | | |
|--|------------------------|
| メリット① 寄付先探しの手間が省ける！ | メリット② 廃棄コストの削減！ |
| メリット③ 寄付した食品の活用先がわかる！
(受渡完了後、受領書が発行されます。) | メリット④ 社会貢献活動でイメージUPにも！ |

食品のマッチングまでの3つのステップ



登録・利用は無料です！

少しでも関心がありましたら、まずはお気軽にご相談ください。

利用方法

こちらからご利用できます。

- 群馬県未利用食品マッチングシステムポータルサイト

URL: <https://foodlosszero.pref.gunma.jp/>



**群馬県未利用食品
マッチングシステム**



お問合せは
群馬県廃棄物・リサイクル課へ
☎027-226-2853
✉hairi-ippai@pref.gunma.lg.jp

提供可能な食品の例

- 消費賞味期限内で品質に問題のない食品
期限の残り目安として1か月以上を推奨
- 出荷できなくなった商品
規格外品、製造ロット未満品、出荷期限切れ品、販売先からの返品など
- 災害備蓄品
更新による備蓄終了品など

広告



一般社団法人 群馬県技術士会 所属
株式会社 節電計画



工場・オフィスの環境改善をお手伝いします
企業様の省エネ診断を行います! (無料～)



本 社 〒370-3533 群馬県高崎市保渡田町1787-2
TEL 027-381-8811 FAX 027-381-8812
Mobile 090-2675-3898
E-mail fukuda@setsuden-k.jp
URL <http://setsuden-k.jp/>



脱炭素を経営課題として捉え、
最適なソリューションをご提案します。

東京ガス株式会社 群馬支社
TEL:027-325-8826

◇継続20年目を迎えた（環境GS認定）事業者の皆様

株式会社中島自動車電装	株式会社オリエント高山工場
株式会社天坊	杉原エス・イー・アイ株式会社
エスケイシリンドー株式会社	有限会社アルミテック
株式会社高崎共同計算センター	株式会社斎藤製作所
株式会社泰通	有限会社松本電設
前橋定期運送株式会社	有限会社玉木製作所
石坂電器株式会社	高信化学株式会社
Astemo 株式会社群馬工場	有限会社須田工業
株式会社日東電機製作所	植木プラスチック株式会社
みつわ運輸株式会社本社営業所	株式会社根本製作所
みつわ運輸株式会社吾妻営業所	マキバ電子機器株式会社
株式会社 J S テック	桐生水道株式会社
三朋企業株式会社伊勢崎工場	有限会社屋敷治二商店
株式会社プランニング	有限会社マリントラベラー
沖電気工業株式会社高崎地区	久保田鑄工株式会社
株式会社旭光	株式会社渡辺アートブロー
正田醤油株式会社	湯井電気株式会社
サラフジ株式会社	株式会社アイエムアイ
有限会社横手製作所	株式会社藤生製作所
株式会社ワーテックス	安全基材株式会社
株式会社千代田製作所本社工場	有限会社五十嵐研磨工業
株式会社千代田製作所新田第一工場	公益財団法人群馬県環境検査事業団本所
株式会社テクニカ	鶴川興業株式会社
有限会社田村軽合金鑄造所	株式会社阿左美建設工業
重田商事株式会社	株式会社メーコー
株式会社しみづ農園	株式会社小暮商店
株式会社三共エクセル	株式会社フジモク
株式会社町田製作所	日本精密測器株式会社
富田電機株式会社	株式会社 MATSUMURA
株式会社オリエント沼田サイト	有限会社五月女鉄工

◇継続10年目を迎えた（環境GS認定）事業者の皆様

株式会社木村鑄造所群馬製作所	利根郡信用金庫西支店
有限会社群馬環境	利根郡信用金庫川場支店
株式会社美正	利根郡信用金庫白沢支店
株式会社桐生明治	利根郡信用金庫前橋西支店
永岡運送有限会社	三村工業株式会社
日正重機建設株式会社	三光開発工業株式会社
中央電設工事株式会社	日本治具株式会社
株式会社萩原土建	有限会社島商事
有限会社清村運輸	コシバ電機株式会社
有限会社千明アクティー本社営業所	
伊勢崎宮郷郵便局	
キャノンシステムアンドサポート株式会社太田営業所	
アルフレッサファーマ株式会社群馬工場	
株式会社サンシステム	
株式会社フレッセイ元総社蒼海店	
洋泉興業株式会社	
株式会社中澤製作所	
株式会社清心	
東京都市サービス株式会社高崎市中央・城址地区熱供給センター	
利根郡信用金庫本部	
利根郡信用金庫本店	
利根郡信用金庫中町支店	
利根郡信用金庫新治支店	
利根郡信用金庫追貝支店	
利根郡信用金庫渋川支店	
利根郡信用金庫前橋支店	
利根郡信用金庫月夜野支店	
利根郡信用金庫昭和支店	
利根郡信用金庫片品支店	

※令和8年7月29日までに継続認定となった事業者

小田原緑化開発株式会社



認定番号 231826
住 所 沼田市町田町694番地1
電話番号 0278-22-2356
従業員数 25名
事業内容 林業及び建設業
代表者 代表取締役 小田原 茂
GSマネージャー 林 敏子
GSサブマネージャー 大坪 優子

わが社の一押し

創業 28 年の当社は、素材生産、伐採・搬出、造林を通じて地域の森林整備に取り組んでいます。森林は木材を生産するだけでなく、CO₂の吸収や水を育む働きなど、多くの役割を担っています。私たちはその豊かな森林資源を次世代へつなぐため、伐採後の造林まで責任を持って行い、持続可能な森林づくりを目指しています。また、環境負荷の低減を目的としてハイブリッド重機を導入し、アイドリングストップの推進や作業効率の向上による燃料使用量の削減にも取り組んでいます。これからも安全第一を基本に、地域に根ざした林業を通じて環境保全と森林資源の循環に貢献してまいります。

現場からひとこと

環境GS認定継続16年目の当社では、環境負荷の低減と安全作業の両立を目指し、ハイブリッド重機の導入やアイドリングストップの推進など、環境GS活動に取り組んでいます。また、社員の質の向上を図るため、業務に必要な資格取得への補助を行い、人材育成にも力を入れています。資格取得を通じて安全意識や技術力の向上につなげ、より良い現場づくりを目指しています。今後も一人ひとりが環境への意識を持ち、安全第一で地域の森林整備に取り組みながら、持続可能な森林づくりに貢献してまいります。

株式会社三共エクセル



認定番号 190413
住 所 みどり市笠懸町久宮68番地
電話番号 0277-76-8778
従業員数 135名
事業内容 合成樹脂製品の製造・販売
金型の設計および製造・販売
制御基板の製造・販売
代表者 代表取締役社長 岡部 勝也
GSマネージャー 正田 剛
GSサブマネージャー 須永 和義

わが社の一押し

弊社は1985年の創業以来、SANKYOグループの一員として社是である「創意工夫」に基づき、遊技機部品の製造に取り組んでまいりました。金型設計から樹脂成形、基板実装、組立までを一貫して行う体制を強みとし、多品種少量生産にも柔軟に対応しながら、短納期・高品質・低価格の実現を追求しています。また、これまでに培った技術は自動車部品など幅広い分野にも展開しており、安定した品質と信頼性を支える生産技術として高い評価をいただいています。さらに、品質管理体制の強化と人材育成にも積極的に取り組んでいます。今後も真の優良企業（Excellent Company）を目指し、挑戦を続けてまいります。

現場からひとこと

環境GS認定の取得から20年を迎え、環境負荷低減に向けた取り組みを継続しています。具体的には、工場照明のLED化や社内書類のペーパーレス化、太陽光発電設備の導入に加え、設備の省エネ運用や廃棄物削減など、現場主導で改善活動を推進しています。日々の業務の中で「ムリ・ムダ・ムラ」を見直し、省エネルギーと業務効率化の両立を図ることで、持続可能なものづくりと地域社会への貢献に努めてまいります。

浅田製粉株式会社



認定番号 343611
住 所 甘楽郡甘楽町小幡253
電話番号 0274-74-3115
従業員数 35名
事業内容 各種無機物粉体製造
および販売
代表者 工場長 小實 賢二
GSマネージャー 清水 千明
GSサブマネージャー 土屋 貴史

わが社の一押し

鉱産物を加工した粉体は、紙や化粧品、塗料、ゴム、農薬、プラスチック、エレクトロニクス製品など、暮らしのさまざまな場面で役立っています。当社は、粉碎・分級・混合・造粒・マスターバッチ・表面処理など幅広い技術を磨き続けるとともに、環境負荷の低減にも配慮したもののづくりを推進しています。これからも最新技術を取り入れながら、品質と環境を両立する総合粉体メーカーを目指します。

現場からひとこと

2023年のEA21認証と環境GS認定取得以来、電力や水の使用量、廃棄物量を継続的に把握・管理し、環境負荷の低減に取り組んでいます。昨年度は、長年使用してきた単独浄化槽を廃止し、公共下水道へ切り替えました。甘楽町は県内でも下水道普及率が高く、地域の環境基盤の充実を実感しています。適正な排水管理を継続できる環境が整い、より環境に配慮した工場運営につながっています。これからも現場の気づきを大切にし、環境にやさしい工場づくりを続けてまいります。

からっ風省三のケチケチ省エネコラム

金（銭）を使わず知恵を使って省エネ実現

GSニュースの新企画「ケチケチ省エネコラム」を担当します、からっ風省三と申します。

省三とは①CO₂削減 ②コスト削減 ③リスク削減を意味しています。音的にも「しょうぞう」で断家みたいな筆名にしました。以後よろしく願いいたします。

なぜ「ケチケチ」省エネコラムか？昨今金さえ出せば、なんでもできる時代です。もちろん省エネも…、でもそれでは「つまらない」し「未来もない」。そこでこのコラムでは、あまりお金を使わずに、省エネ実現のために、知恵を使うことを提案いたします。GS事業者の皆さんと一緒に考えたいと思っております。私からの一方的な片思いにならないように、皆さんの協力をお願いいたします。

まず皆さんからの問い合わせや質問を、ドシドシ募集いたします！「空調は…」「照明は…」「太陽光は…」「受電設備は…」「建屋は…」などなどなんでもお受けします。と言っても、たかだか年3回のニュースですので、答えられる質問は限られますが…

「本当にお前ひとりでなんでも対応できるのか？」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。ご安心ください。私には優秀なブレインがいます！GS省エネ診断員の方々です！皆さんからの幅広い問合せに対応出来ます、出来るはずです。診断員の皆さん、どうぞよろしくお願いします。（ここまで読めば、診断員の皆さんは「省三」の正体にお気づきでしょう。）

ここまで、ほぼほぼご挨拶でしたが、最後に「記念すべき1回目のアドバイス」です。私が診断員の知恵を拝借するように、皆さんも全従業員の知恵を「フル」に活用してみましょう。4半期ごとに一人一件省エネのアイデアを出してもらうのは如何でしょうか。まずは一緒に働く身近な仲間に声をかけましょう。「ベテランから斬新なアイデア」「新人から本質を突くアイデア」など意外な人から意外なアイデアが出てくるかも？

※このコラムが長く続けられるように、ご協力をお願いいたします。[info@gccca.jp]宛でのメールをお待ちしております。

※「カーボンニュートラル達成」まで二代目三代目の省三に繋がれば成功かと……



ネイチャーポジティブ経営どこから取り組む？

IPBES（＊1）が今年2月に発行した「ビジネスと生物多様性評価報告書」は、すべての企業が自然に依存し、影響を与えている以上、それらに対処する責任を有するとともに、企業がその活動を通じて、社会変革の担い手となり得ることを強調しています。

しかし、2023年には世界全体で自然に負の影響を及ぼす資金総額が推計約7.3兆ドルであったのに対し、自然にプラスの影響を与える資金は2,200億ドル、前者の僅か3%にすぎませんでした。現在の市場経済は自然の損失につながるインセンティブが支配的となっており、このままでは個々の企業努力が積み重なったとしても、自然の損失を食い止め、回復させることはできません。

そこで、5つの「行動を可能にする環境」として①政策、法的、規制的な枠組み、②経済と金融システム、③社会的価値、規範、文化、④テクノロジーとデータ、⑤能力と知識を提示し、自然にプラスの影響を与える事業活動（＝ネイチャーポジティブ経営）が正当に評価され、資金が集まるような環境を整備する必要があります。

では、個々の企業としてどのようなことに取り組んだらよいのでしょうか。

2022年12月に採択された「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」の「2030年に向けたグローバルターゲット」には23のターゲットが設定されており、そのうちの№3が「30by30」（＊2）であり、№15が「ビジネスの影響評価・開示」です。

「30by30」では、OECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）に該当する自社のビオトープなどを自然共生サイトとして認定を受ける企業もあり、県内でもサンデンや三菱電機など、複数の企業が認定を受けています。規模の大小は問われないので、申請を検討してみてもいいでしょうか。

「ビジネスの影響評価・開示」では、自らの事業活動のどこで、どのように生物多様性の恵みを利用し、影響を与えているか把握することから始めましょう（下図参照）。自社の調達先を確認するとともに、プロセスの合理化による原材料の削減や再生材の活用、調達基準の見直しなどを通じて、事業活動に伴う生物多様性への負荷を軽減し、自然再生に貢献できる方法を探ります。

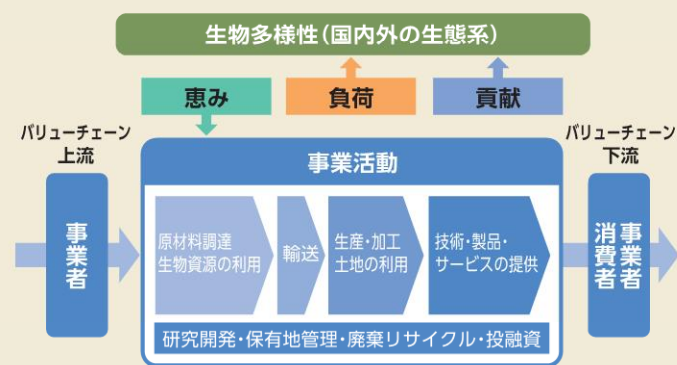
環境省のエコアクション21では、①調達する原材料（木材、農水産物、鉱物等）の原産地の把握、②地産地消の推進、③原産地の生物多様性への悪影響についての情報把握、④認証品の活用、⑤生物多様性への影響の公表、⑥地域環境への配慮の6項目を推奨しています。

地産地消の推進や認証品の活用、地域環境への配慮などはネイチャーポジティブ経営への入り口として取り組みやすいと思います。まずそこから始めてはいかがでしょうか。

＊1：IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学－政策プラットフォーム）は、気候変動における IPCC（気候変動に関する政府間パネル）と同様の枠組みで、「生物多様性と自然」に関わる科学的評価を行う政府間組織

＊2：30by30とは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全しようとする目標

事業活動と生物多様性の関わり概念図



環境省「昆明・モンテリオール生物多様性枠組のパフレット」より

補助金を使って設備更新・導入を～補助金の活用方法～その 42

はじめに

「補助金を使って設備更新・導入を～補助金の活用方法～その42」をお届けします。今回は、現在公募が行われている補助金や今後公募予定の補助金情報をお知らせいたします。本記載内容は現時点における概要情報であり、変更となる可能性がある旨をご了承ください。詳細は各補助金事務局等の公式案内にてご確認ください。

●新事業進出・ものづくり商業サービス補助金

中小企業等が技術的革新性のある製品・サービス開発や新市場・高付加価値事業への進出、海外市場開拓に取り組む際の設備投資等を支援

申請類型	従業員数：補助上限額 ※（）は賃上げ特例の場合	補助率
革新的新製品・サービス枠	5人以下：750万円（850万円） 6～20人：1,000万円（1,250万円） 21～50人：1,500万円（2,500万円） 51人以上：2,500万円（3,500万円）	1/2 または 2/3
新事業進出枠	20人以下：2,500万円（3,000万円） 21～50人：4,000万円（5,000万円）	1/2 または 2/3
グローバル枠	51～100人：5,500万円（7,000万円） 101人以上：7,000万円（9,000万円）	2/3

●省エネ・非化石転換補助金

工場・事業場において実施されるエネルギー消費効率の高い設備への更新等を支援。

事業区分	補助上限額（※）	補助率（※）
工場・事業場型	単年度事業：15億円・20億円 複数年度事業：20億円・30億円・40億円	中小 1/2・2/3 大企業 1/3・2/1
電化・脱炭素燃転型	3億円・5億円	1/2
G X設備単位型 設備単位型	1億円・3億円	1/2・1/3・1/5
エネルギー需要最適化型	1億円	中小 1/2、大企業 1/3

※補助上限額や補助率は、事業区分ごとに定められている申請枠に応じて異なります。詳細は執行団体HPをご確認ください。

●中小企業省力化投資補助金（一般型）

人手不足の中小企業等が、省力化効果のあるオーダーメイド・セミオーダーメイド性のある設備やシステム等を導入し、労働生産性の向上を目指す取り組みを支援

従業員数	補助上限額 ※（）は大幅な賃上げを行う場合	補助率
5人以下	750万円（1,000万円）	1/2 または 2/3
6～20人	1,500万円（2,000万円）	
21～50人	3,000万円（4,000万円）	
51～100人	5,000万円（6,500万円）	
101人以上	8,000万円（1億円）	

補助金の相談窓口

補助金の相談は群馬県地球温暖化防止活動推進センター（TEL 027-289-5944）まで。事例に精通したGS推進員を派遣しますので、お気軽にご相談下さい。また下記サイトでは最新の補助金情報を掲載していますので、参考にして下さい。

「ミラサポplus」 <https://mirasapo-plus.go.jp/>

文責：環境GS推進員 関 誠



環境 GS についてのお知らせ

○令和7年度実績報告・令和8年度継続申請書のご提出をお願いいたします。

令和8年度継続申請が未提出の事業者様はお早目のご提出をお願いいたします。

7月1日以降も継続申請を受付けていますので、是非今後も環境GSの継続をご検討ください。

詳しい継続申請方法については県ホームページ『環境GS認定制度継続申請のページ』（下記URL参照）をご確認ください。

提出方法は、WEBフォームまたは郵送です。ご申請いただいてから認定されるまで1か月～1か月半程かかりますので、お手続き等に認定書が必要な場合は余裕をもってのご申請をお願いいたします。

●環境GS認定制度 継続認定の申請について

<https://www.pref.gunma.jp/page/6569.html>

二次元コードはこちら→



○環境GSロゴマークの使用申請について

環境GSロゴマークの使用申請は随時受付をしております。

今年度は、継続認定後にお送りしていますので、継続申請についても忘れずにお手続きいただきますようお願いいたします。

ロゴマーク変更に伴い申請件数が増加しております。そのため、ロゴマークの送付までお時間をいただくことがございます。現在、ロゴマークの使用申請をいただいてから、概ね2週間程度でお送りしております。使用予定のある事業所様は、お早目のご申請をお願いいたします。

また、今年度よりロゴマークの運用方法が変更となりました。ロゴマーク送付時にお送りする「ロゴマーク運用マニュアル」をご確認いただき、ロゴマークのご使用をお願いいたします。

●お申込み方法や詳細は県ホームページをご確認ください。

<https://www.pref.gunma.jp/page/6571.html>

二次元コードはこちら→



○環境GS認定事業者取組結果公表ページをご利用ください。

ご提出いただいた実績報告書に基づき、各環境GS認定事業者様の取組結果を公表するページを公開いたしました。

業種ごとや事業所の規模ごとに取組結果をご確認いただけますので、是非ご活用ください。

今後の環境マネジメントシステム構築への取組みのご参考にしていただけますと幸いです。

※継続認定後に順次取組結果を掲載しておりますので、反映までお時間をいただいております。

●群馬県環境GS認定事業者取組結果公表ページ

https://datastudio.google.com/reporting/a53cf502-aeaa-4d5b-9912-675b11192926/page/p_6u2qd560zd

二次元コードはこちら→

